

ラクロ研究

以下の三編は、生島教授の十八世紀の演習でラクロ解釈の難しさを知った私達が、問題点を討論しあう間に、次第次第に共同研究の形をとるようになって生まれたものである。西川が問題点の提出と序論をかね、天羽が作品分析を、松本がルソーとの関連において、それぞれラクロと「危険な関係」を論じる。佐々木が「新エロイズ」との関係を論じる予定であったが、これは別の機会に発表されるであろう。いろいろ欠点も多く共同研究の機能を十分に果たとはいえない。御批判をまっぴら、今後の反省の資としたい。